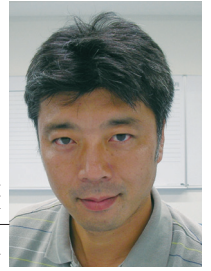


『理学療法士からみた福祉用具』、『作業療法士からみた住宅改修』をそれぞれの視点から、専門的な知見を踏まえお伝えするコラムを掲載いたします。今回は作業療法士、山田先生からのごあいさつです。



大阪保健医療大学 作業療法学専攻
作業療法士・二級建築士

山田 隆人

環境が行動を、人の可能性を変える。

暖かい日が多くなり、夏の到来を感じるが多くなりました。活動的になれる季節が待ち遠しい今日この頃です。

まずは自己紹介をさせていただきます。作業療法士をしている山田隆人と申します。現在は、作業療法士を養成する大学で、作業療法士を目指す方々のお手伝いをさせて頂いています。

私は主に住居の話、暮らし方や居住環境の改善のお話をさせて頂きたいと考えています。私が居住環境に興味を持ったのは、最初に勤務した施設で環境の大切さを実感し、それ以来、環境が持つ魅力を伝えるべく行動してきました。今回は、それらの環境の魅力を伝えることができると考えています。

私が最初に勤務したのは診療所で、今でいう通所リハビリテーションと訪問リハビリテーションを提供していました。腰痛持ちのおばあさんに起きている時間を増やしてもらおうと、「昔やっていたわらじを編みましよう!」と誘い、外出機会を増やしてもらいたいおじいさんに、風呂釜の修

理時ぐらい「一緒に温泉に行こうよ!」といった活動をしていました。人が行動するときは、目的があり、楽しみや思い入れがあり、できそうだと感じてもらえる瞬間や機会を作ることの面白さを感じることができました。

通所リハビリテーションで仕事をしている際には、介助量が多い方の送迎を担当することが多くありました。それで「ええのかなあ」と思うことが多くありました。介助量に関係なく、送迎の際には色々な方とお話する機会を提供してもええのちゃうかなと考えました。そこで、自宅の玄関ポーチにスロープを付けることを家族に提案し、受け入れてもらうことができました。スロープの設置後は、女性の介護者でも送迎が可能になり、送迎中の話題や会話量が増えていきました。人が支援することも大切ですが、環境を変えることでできることの可能性が増えたと感じられた出来事でした。今後は、こういった体験談や居住環境の改善の際のポイントなどを紹介できればと考えています。今後ともよろしく願い致します。